

## 露出アスファルト防水改修工法用 下地チェックシート

調査日		物件名称		建物構造・調査部位	
調査者		所在地		既存工法	

### 調査項目

No.	調査項目	調査結果 (該当するものに○をつける)			AS工法判定基準
		劣化度Ⅲ	劣化度Ⅱ	劣化度Ⅰ	
1	漏水発生の有無	有り	有り *止水処置容易	無し	漏水がないこと
2	断熱材の有無	有り *断熱材劣化あり	有り *断熱材に異常なし	無し	既存に断熱材がないこと
3	防水材の破断、損傷	防水層の破断	防水層の(表面層)ひび割れ	外観上の異常を認めず	既存防水層に破断・損傷がないこと
4	防水層の端末はく離	押え金物・固定金物の脱落、張り仕舞・ドレン部のはく離、口開きあり	押え金物のゆるみ、端末部シールのはく離、端末に近接するふくれ・浮き上りあり	外観上の異常を認めず	押え金物のゆるみ、既存に端末はく離がないこと
5	ルーフィング接合部のはく離幅・ずれ幅 (初期接合部は、アスファルト系は100mmとした)	面積の50%以上	面積の20~50%	面積の20%未満	面積の20%未満
6	防水層立上り隅浮きワクレ高さ	50mm以上	30~50mm	30mm未満	原則撤去のため、参考とする
7	保護仕上材の劣化	保護仕上材の消失 (砂落ち:面積の80%以上)	保護仕上層の減耗および白亜化	保護仕上材の変退色 (砂落ち:面積の40%未満)	アスファルト系の場合 砂落ち:面積の40%未満
	保護仕上材の有無、材質の確認	有り(材質: ) 無し			
8	防水層のふくれ・浮き	面積の30%以上	面積の10~30%	面積の10%未満	面積の10%未満
9	水溜りの有無	有り:面積の10%以上 段差10mm以上	有り:面積の10%以上 段差10mm未満	有り:面積の10%未満	10mm未満
10	防水材内への雨水の浸入	有り( % )	無し		浸入が無いこと
備考					

\* 上記判定基準に満たせない場合は、既存露出アスファルト防水改修サラセーヌAS工法は適用しない。  
ただし、判定基準が満たせない項目を既存アスファルト防水改修用是正処置方法(案)に記載する適切な処置で処理し、判定基準を満たした場合は除く。

### 仕様提案

推奨防水改修仕様	
下地処理	

### 既存アスファルト防水改修用是正処置方法(案)

No.	調査項目	是正処置方法(案)
1	漏水発生の有無	(止水処置が容易な場合)漏水原因を確認し、止水処置をとる。
2	断熱材の有無	断熱材の浮きを固定金具で固定し、必ず遮熱保護仕上げとする。なお、防水層内に水が回っている場合は撤去する。
3	防水材の破断、損傷	既存同質防水材であぶり戻すなど部分補修を行う。
4	防水層の端末はく離	既存防水層を部分撤去し、下地調整後ウレタン防水仕様とする。既存防水層撤去端部は、必要に応じてフラットバー等で固定する。
5	ルーフィング接合部のはく離幅・ずれ幅 (初期接合部は、アスファルト系は100mmとした)	補強貼りする等の破断予防の対策をとる。
6	防水層立上り隅浮きフクレ高さ	既存防水層の立上り部を撤去し、下地調整後ウレタン防水仕様とする。既存防水層撤去端部は、必要に応じてフラットバー等で固定する。
7	保護仕上材の劣化	下地調整材の付着が阻害されるシルバー仕上げ等を除去後、砂落ちによる段差を修正する。
8	防水層のふくれ・浮き	既存同質防水材であぶり戻すなどは正処置を行い、既存防水層撤去端部は、必要に応じてフラットバー等で固定する。
9	水溜りの有無	既存同質防水材であぶり戻すなど下地調整を行う。(水勾配を是正したり、排水溝等を設置する等、排水処置を講じる。)
10	防水材内への雨水の浸入	残留水を除去し、既存同質防水層であぶり戻しをする。